◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第２６回◆

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	ＩＤ
	質問	課題	提案					
第26回流域委員会	○			○	治水 （危機管理）	直轄区間のことは今御説明いただいたんですが、その直轄区間外のところは、こういう緊急時の対応がどういうふうになっているのかということを、まず1点ちょっとお聞きしたいと思います。	指定区間でも、直轄管理区間と同様に洪水予報等の緊急時の体制は整えられているのか？	2601
第26回流域委員会	○			○	維持管理	九頭竜ダム、真名川ダムとあるんですけれども、これが今県下では最大のダムだと思うんですが、要するにここは建設されてから相当の年月がたっているんですけれども、中にたまっている堆砂の状況は、管理とかいう中に把握するということはないんですか。把握なさっているのなら、どのぐらいのダムの貯水能力のうちの何％ぐらい堆砂があるのかないのかというのを、わかっていたらお知らせいただきたいと思います。	ダムの維持管理として、九頭竜ダムや真名川ダムの堆砂量は把握されているのか？	2602
第26回流域委員会			○		治水 （危機管理）	水位や流量の情報はかなり、リアルタイムで出てきているということで、いいと思うんですけれども、今後どうなるのかというあたりの予測が伴わないといけない。やはり、行政機関からそれなりの情報が提供されて動くということももちろん大事ですが、かなり経験をしてくれば、これぐらいの雨が降るとどういう対応をしないといけないかというのは、それなりの判断をできる人も当然出てきているはずなんです。そういう人たちに対してどういう情報を提供していくのかというのがこれから大事ではないかという気がするのです。	リアルタイムでわかる水位や雨量の情報には、将来的な傾向の予測も必要である。また、情報が必要な人たちに対してどういう情報を提供していくかも重要である。	2603
第26回流域委員会			○		治水 （危機管理）	一番大事なことは雨の情報だと思うのですけれども、現状の雨の情報というのはやはりポイントの情報でしかなくて、たまたまそこに非常に雨が降っている場合はいいわけですけれども、外れている場合に関しては、実態を必ずしも正確に情報として提供しているとは限らないわけです。 アメダスの情報であるとか、それから国土交通省が持っておられる、例えばレーダー雨量の情報ですとか、いろんな情報が錯綜していますが、それをやはり面の情報としてどうやって提供していくのかということを考えていただいたらいいのかなということです。	現状の雨の情報というものは点の情報でしかなく、外れている場合には必ずしも正確な情報とはいえない。そのため、今後はいかにして雨の情報を正確な面の情報として提供していくかが重要である。	2604
第26回流域委員会			○		治水 （危機管理）	現状の小河川における排水能力の問題、これも今後また十分確保していくことが必要になってくるかと思います。内水の氾濫の頻度が結構高いわけでして、現在、排水の状況が例えば洪水時にどういうふうになっているのかといったような情報提供も身近に、市内に住んでいる方にとってはむしろ重要な情報になってくるんじゃないかという気がしておりますので、こういった施設の充実とともに、そういった情報の配信というのもあわせ持って、また今後考えていただければという気がいたします。	福井市内の小河川の内水氾濫に対しては、排水能力を十分確保していくことが重要である。また、洪水時に排水状況についての情報提供も住民にとっては重要な情報となる。	2605
第26回流域委員会			○		治水 （危機管理）	ふだんからそういう準備を住民の方に心がけていただく必要があるので、そういったことに対しての啓発なんかも非常に重要だと思うわけです。 災害が発生する前に、例えば、注意報とか警報も非常に重要なんですけれども、それを判断できるような仕組みであれば一番いいんですけれども、そういう人材といいますか、そういった方の意見だとかも踏まえて、判断の材料として何か住民が行動を起こせるような、そういった情報の提供も非常に重要ではないかと考えております。	住民に対しては普段から災害時の対応を啓発することが重要である。また、災害が発生する前に、住民だけで行動が起こせるような情報提供も重要である。	2606
第26回流域委員会			○		治水 （危機管理）	地域にいますと、地域自身はそれぞれ一体的な情報とは違った独特の状況になりますので、私が感じたのでは、そこに住んでいる人の力、はせ参じてくれる人がそこにいるということ、それからもう一つは、それを機能的あるいは機動的に動かす組織がしっかりあるということ、もう一つは、それに的確な情報を乗せるということだと、体験をして思いました。	災害時に重要なことは、はせ参じる人がいる、機動的に動ける組織がある、正確な多くの情報を乗せるシステムがあることで、これらによって臨機応変にその地域で対応することができる。	2607
第26回流域委員会		○			治水 （治水安全度）	他の実績パターンで生起した場合という四角の中に、洪水規模・実現性という分岐があります。これが、他の実績パターンで生起した場合という四角の中にしかないので、実績が重視されることになってしまいます。実績のパターンが他の実績パターンで生起した場合に比べて重みが非常に大きくなってしまうわけですね。つまり、このフローでいきますと、来年とんでもない雨が降ったら、それは実績ですから、必ず検討対象流量になってしまうことになります。 そういうことにならないために、論理的一貫性を比較的長期にわたって保持するためには、この洪水規模・実現性という分岐を最後にもってきていただきたい。つまり、実績パターンと他の実績パターンが生起した場合を同等に扱って、両方が合流した後にこの分岐を入れていただきたい。	検討対象洪水の選定に際しては、実績パターンと他の実績パターンが生起した場合を同等に扱うため、両方のパターンが合流した後に洪水規模・実現性の検討を行うべきである。	2608
第26回流域委員会			○		環境・利水 （生物・景観）	足羽川という自然環境が、洪水が起こればどういうふうになるんだと、相対しているそれぞれの人が、こうあるべきだ、ああるべきだと言うことの一番基本的な、足羽川の環境としての基準点になるのではないかと思うんです。それを構築していただきますと、それを真名川に、九頭竜川に、日野川にというふうに派生していただければいいのではないかと思います。 とても大事な、自然環境に対する基本的な財産のようなものを今受け取っているんだと思いますので、それを十分生かすような計画を立てていただくことを切に望んでおります。	福井豪雨後の足羽川の河川状況が河川環境を議論する上で重要となる。これらを十分にいかして計画を立てていって欲しい。	2609
第26回流域委員会		○			環境・利水 （生物・景観）	取ってしまえば河床が物理的にきれいになるんだというふうなことじゃなくて、今までの降雨、今回の豪雨にも学んでいくべきというのと同じ観点で、今までやられた事業の解析というのか、その後のことも含めて、さらなるいい形の事業につなげていかなきゃならないという気概を持って、これから次の世紀に臨むべきだと思います。	福井豪雨や今まで実施してきた事業の経験や結果をいかして、これからの事業に取り組んでいくべき。	2610
第26回流域委員会			○		環境・利水 （生物・景観）	当然、洪水で荒れた河原なんかも目の当たりにされているところもあると思うんですけれども、本来のそういう玉砂利、玉石の河原が形成されているところに関しては、例えば、現状では治水をとにかく優先しないといけないけれども、工事が進む中で、そういった部分をどこかで保証してあげる、担保してあげるということも必要じゃないかということで、恐らくそういった意見を住民の方から吸い上げるということも、こういう中で必要になってくると感じます。	治水か環境かの選択として、例えば、洪水出水によって玉砂利、玉石等で形成された河原を治水のために全区間を河川改修するのではなく、部分的に環境のために残す配慮もして欲しい。	2611
第26回流域委員会			○		環境・利水 （生物・景観）	今までのとおりに大きなブルドーザーを入れて、よそから石を運んできて護岸をつくってしまわないで、あそこは多少護岸が洪水のたびにこぼれても人の命にかかわることでなければ、あのまま残していただけないか。 人間の立場で、特に公園をやられた方からしたら、ああいう崩れそうなのは嫌だなと、これも価値観の違いだと思うんですが、川には立場の違うものがおります。あそこをもしそのまま残していただきましたら、足羽川に今棲んでいる雑魚と言われている野生の魚たちが必ずあそこを産卵場所にして、そして足羽川全体の種が保存される場所になるということを生物の側からは強調しておきたいと思うんです。	治水か環境かの選択として、例えば、洪水出水によって偶然に魚の産卵場所が形成せれた箇所に対して、人の命にかかわるところでなければ、環境のために残す配慮もして欲しい。	2612
第26回流域委員会			○		環境･利水 （水量）	今いろんなところで河床掘削とか河道の拡幅という形で計画なされているんですけれども、特に上流の方はただでさえ水がないので、川が本川でも川の形状を成していないんですね。要するに水の方を解決しないでおいて河床だけ掘削しても、災害時には確かに容量は増えるかもしれないですが、平常時の正常流量の維持が非常に困難になるのではないかと思います。	河川改修を実施する場合、治水だけではなく、平常時の維持流量や生物の生息・生育環境等も十分に配慮することが重要である。	2613
第26回流域委員会			○		地域との連携 （住民意見聴取）	川に関心をお持ちのNPOの団体を取りまとめておられるドラゴンリバーですとか日野川流域交流会、日野川の場合は日野川流域交流会というのは、川の駅という形で多くの団体の方とネットワークをとっておられますし、ドラゴンリバーはさらに広範囲にネットワークをお持ちですから、そこを通じて団体に働きかける。当然住民の属性は、住んでいる住民ということですけれども、実はそれぞれいろんな組織体に属しておられますので、その中の一つとして、川にかかわる団体というところへ直接まず意見の聴取ということです。	積極的な意見を聴く方法として、川に関心の高いNPOに属している住民に働きかけて、「住民意見を聴く会」で意見を述べてもらうことも考えられる。	2614
第26回流域委員会			○		地域との連携 （住民意見聴取）	場合によっては、その進行役という方は、ファシリテーター役ということで、ワークショップみたいな形でやって、ワークショップは皆さん御存じでしょうし、附せん紙にいろんな意見を書いて問題解決の糸口をつかむというやり方です。そういう形で説明を受けた後にワークショップをして意見を集める。 そうなると、例えば先ほど住民の属性で年齢が幾つぐらいで何とかという個々の意見も非常に重要ですけれども、その集まった場で全体で出てきた意見も、そういう属性のない意見もやはり重要である。	意見を聴取する方法として、個々の意見だけではなく、ワークショップにより、そこの会場で全体的に出てきた意見を聴取することも重要である。	2615
第26回流域委員会			○		地域との連携 （住民意見聴取）	意見と質問とが混同していると思いますので、そういう場合に、主催者の方で答弁されるのか、言いっ放し、聞きっ放しですか、その辺どういう原案ですか、お聞きしたいと思います。	住民から、意見の他に質問が出た場合には、河川管理者が返答をするようにしたほうがいい。	2616
第26回流域委員会			○		地域との連携 （住民意見聴取）	市町村合併も役所側が説明し、聞くだけという感じですけれども、この問題の場合には、原子力ほどではないにしましても、関心のある方、意見のある方が出てこられる。 いずれにしても、福井県民、地域住民が、森下先生のような話をたとえ違った立場の者でも理解できるような会合に持っていくことが一番大事なのではなかろうかと思っております。	「住民意見を聴く会」に参加する人たちは、関心のある方、意見のある方がほとんどと思われる。会を円滑に運営するためにも、事前に意見を聴くことや、違った立場の者でも理解しあえるような会にもってくことが重要である。	2617

◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第２６回◆

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	ＩＤ
	質問	課題	提案					
第26回流域委員会		○			地域との連携（住民意見聴取）	往々にして関心の高い人だけの意見交換とかやりとりという形で過ぎてしまうとなってくると、バランスを持った形の運営も恐らくできないだろうし、それから、我々流域委員会としては、こういう考えというふうに思って、それをまとめて、それを踏まえた河川管理者の説明ということでもあろうかと思いますので、物によっては批判は甘んじていかなければならないですけれども、そればかりの形になったとき、今度は両方とも聞くというぐあいになっているので、河川管理者さんが、今度どういう形で整備計画とかを出すかというものについては、我々なりに責任も持っていますので、その内容の出し方なり説明という形に、やり方としてもバランスを持った形で、最初から排除することではなしにやれるやり方をどういうふうにすべきか。	「住民意見を聴く会」は、関心の高い人たちだけの意見交換にならないようバランスをもった運営を心がけるべきである。	2618
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	県民に問いかけるということを、時間がないのですけれども、何かある程度雰囲気づくりということをマスコミの皆さんにも手伝っていただきながら、していく必要があるのじゃないでしょうか。	「住民意見を聴く会」については、マスコミの人たちにも手伝ってもらいながら、雰囲気づくりをしてみてはどうか。	2619
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	河川整備計画を説明されるということについては、その地域に住んでいらっしゃる方に納得してもらわないといけないということが、一番大きなことだと思います。 行政の説明ということであったとしても、その行政の足りない部分、足りないというのは、ハードな部分は物すごくしっかりされているんだと思うのですが、ソフトの部分で何か補うことがあるのだったら、それは流域委員会に出席されている委員の方々に応援を頼まれることがいいのではないか。	河川整備計画を説明するということは、ただ説明するだけではなく、地域の住民の方に納得してもらうことが重要である。そのためにも、委員の方の応援も必要だと思う。	2620
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	今御説明いただいた住民意見の聴取についてですけれども、これは意見を聞くシステムについて、非常に細かく丁寧につくってあります。しかし、何のために聞くのかという、先ほどの委員長の言葉では「河川整備計画のために」、これではわからないですよね。しかも、先ほどからお話が出ているように、価値観がそれぞれ違うし、時代の風も違ってきているし、また、この間の豪雨で治水の大切さということも身にしみてわかっているわけで、そのところをいろいろ皆で話し合いましょうと、まず皆さんに来ていただく、声を出していただくという目的をもう少し詰めておくと、河川整備だけではちょっと難しいという気がいたします。	住民意見の聴取については、住民の意見を聴くシステムだけではなく、まず会場に来てもらうような環境づくりや、住民の方が意見を出しやすい環境づくりを考えることも重要である。	2621
第26回流域委員会		○			地域との連携（住民意見聴取）	例えば、開催の予定が1月、2月、3月、こうしますとありますけれども、これを見た限りでは、例えば2月に意見を聞いて、3月にそれを反映して委員会の審議に出すという形になっていますけれども、時間的にこれはとても不可能だと思われます。これはどう見ても不可能だと思います。ですから、時間軸をつくってみて、それで逆に無理して3月までにやる方がいいのかどうかというところも考える必要があると思います。	開催予定が１月、２月、３月とあるが、時間的にこれは不可能ではないか。無理して３月までにやる方がいいのかどうかを考える必要がある。	2622
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	事細かく出す必要はないかと思いますけれども、恐らく何らかの形で要約版みたいなものは要るかもわからないです。そうじゃないと、当日ぱっと意見を聞かされて、答えなさいと言われても、多分非常に答えにくい。ですから、建設的な意見が出ずに、下手すると、批判ばかり出てしまうということ、あるいは意見も出ないかもしれないということがあると思います。 ですから、この開催予定というのも、十分慎重に考えられて、どういった内容まで出してと、そこら辺をもう少し煮詰めた方がいいんじゃないかのかという気がするのです。	住民意見の聴取の際には、建設的な意見が出ずに批判的な意見や、意見が出ないかもしれない。説明資料の概要版の作成等、もう少し説明する内容等を慎重に考えていくべき。	2623
第26回流域委員会		○			地域との連携（住民意見聴取）	うちの町長にしても、福井市長さんにしても、我々の発言する場所が、なぜ委員会だけで延ばしているのかと、もう少し我々の発言する場所があってもいいんじゃないかというような、僕としては感じがしますので、住民からの意見を聞くというシステムを根本的には踏んでいかなくちゃならないという理由が、僕ははっきりしていると思いますので、これは法的といいますか、そういうシステム、その場を通り、また町村長の意見を通り、知事さんの意見を通って結局物事が成し遂げられるというシステムを発言者には十分周知徹底しておく必要があろうと思います。	自治体の長に対して、住民意見聴取の後に意見を聴くという河川整備計画の決定の流れを十分に周知・徹底しておく必要がある。	2624
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	我々委員が参加しても何も行政のように執行権があるわけでないし、ただ、そのときの雰囲気としてはこうであったという程度であって、それ以上の責任を持った発言はできないのではないかと思いますので、行政の方でもってある程度こういうぐあいでやっていきたいという確たるところを出していただいて、それを我々が了として今後進めていくべきではないかと思います。	「住民意見を聴く会」では、委員が参加しても責任を持った発言ができるものではないので、行政の方である程度のビジョンを示して進行させていくべき。	2625
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	「住民意見を聴く会」についてはちょっと置いておきまして、その以前の情報発信の中にフォーラムとか講習会という提案もありました。これならば団体としても一緒に作業できると思います。 そういうフォーラムみたいなものを団体がやって、「住民意見を聴く会」をその後すぐにやってもいいですけれども、二つやるとか、そんなのもいいんじゃないかなと今思いました。	NPOの団体と一緒に作業する一つとして、「住民意見を聴く会」の前に情報発信等を目的としたフォーラムを共同で開催してみてはどうか。	2626
第26回流域委員会	○			○	地域との連携（住民意見聴取）	開催主体、河川管理者というのは、河川整備表でも決まっているわけですか。 ソフトにやろうということを先ほど提案したことからすると、流域委員会が主催して「住民意見を聴く会」があってもいいのではないかと思います。	「住民意見を聴く会」の開催主体は、基本的に河川管理者であるが、流域委員会が開催主体となることも可能なのか?	2627
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	環境を大事にしていこうという基本的な精神でいくのかとか、ただ、丈夫であればいいということでいくのかとか、いろんなことがあると思うんです。今の時代ですから、大きな流れの中でおおよその意見を住民は我々と意見が一緒だなということを確認する手続のような気がするわけです。	「住民意見を聴く会」では、技術的な説明のみをするのではなく、"環境を大事にしよう"とか"安全にしよう"等の方向性を住民の方に認識してもらうことも重要である。	2628
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	たまたまこの中には、一般の方と非常に身近に接して日ごろ意見を聞きながら、河川環境をどう考えていくかという団体もありますので、主体は当然管理者だろうと思いますけれども、そこの中でどういう形でうまく意見を吸い上げていくかというノウハウといいましょうか、テクニックというか、やり方といったことにつきましては、意見、情報をしっかり取り上げまして、どんな形でやれば最も意見が吸い上げられるのかということについては、ぜひ積極的に意見交換なりをやっていただければいいんじゃないのかと思います。	住民から意見を上手く聴取していくには、ノウハウを持っているNPOと河川管理者とが協力して積極的に意見交換をしていくべき。	2629
第26回流域委員会	○			○	地域との連携（住民意見聴取）	1カ所で大体何時間をめどとしておられるのか、それをお聞きしたいんです。	「住民意見を聴く会」の開催時間は、おおよそどの程度をメドとしているのか?	2630
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	僕は、前の委員会のときは反対、賛成で、それはダムの問題ばかりでしたので、反対意見を言う者、また賛成意見を言う者と分かれてやったんですけれども、今度の場合も1人10分とか5分とか意見を述べるという時間制限をしないと、質問とも意見ともわからないような押し問答みたいなことを繰り返して、1人が長時間持つというのは、参加した人たちも非常に不愉快な感じを持ちますので、持ち時間を決めてもらうといい。	「住民意見を聴く会」では、住民に意見を述べてもらう場合、一人当たりの持ち時間を決めるべき。	2631
第26回流域委員会			○		地域との連携（住民意見聴取）	説明するけれども、何のリアクションもないというのも心配なので、それはどうするかというのは、どんな雰囲気なのか私もわかりませんし、各説明会の会場ごとによって全然濃淡が違うのではないかという気もしております。そこのところは、次回までにどんなものかというところを実施側と詰めておきたいと思っています。	河川管理者に住民意見聴取方法について意見を述べる委員会の結論としては、具体的な方法等を次回委員会で再度審議する。	2632